

No. 18-7

事務事業評価シート1-1

は、プルダウンメニューから選択

事務事業No. 18 - 7

事業分類		<input checked="" type="checkbox"/> ソフト <input type="checkbox"/> ハード <input type="checkbox"/> 必需		公的関与		8		作成日		28年 5月 19日		
事務事業名		こどもカレッジ開催事業						シート作成部署				
総合計画上の位置付け	基本施策	3 心豊かなまち						課名	社会教育課		係名	生涯学習係
		3-1 生涯学びのあるまちをつくる							シート作成者			
	施策	3-1-5 青少年の健全育成						予算費目	会計		一般	
		① 青少年の活動促進							款		10	
主要施策							項		5			
							目		3			
個別計画名												
住民との関わり		アンケート調査										
事業の対象・目的・内容	対象（誰を、何を）				目的（どういう状態にしたいのか）							
	町内在住の小学生				週末や放課後、夏休みなどに子どもたちが、自ら体験したり挑戦したりする中で「生きる力」を身に付けていくことを支援する。							
事業内容（どのような方法で、何を行うのか）		こども週末活動支援事業 こどもカレッジ（5～6回連続講座） 講師の指導のもと、お菓子作り等に挑戦する。 ネイチャーくらぶ（5～6回連続講座） 講師の指導のもと、環境学習を行う。 夏休み子ども特別講座事業 さまーちゃれんじ 単発の体験講座を複数開設。										
事業期間		昭和 <input type="checkbox"/> 平成 <input checked="" type="checkbox"/>		8年度		～		平成 年度（ 年間）		<input checked="" type="checkbox"/> 期間設定なし		
根拠法令・要綱等		社会教育法										
		平成26年度（決算）		平成27年度（決算）		平成28年度（予算）						
全体事業費（千円）A+B		508		1,461		1,638						
財源内訳	国庫支出金		0									
	県支出金		128		227		262					
	地方債		0									
	その他特定財源		0									
	一般財源		116		130		272					
直接事業費（千円）A		244		357		534						
人件費（千円）B		264		1,104		1,104						
内訳	一般職員（人・千円）		0.04 人 264		0.14 人 924		0.14 人 924					
	臨時職員（人・千円）		人 0		0.10 人 180		0.10 人 180					
成果指標	成果指標名			単位	27年度		28年度	29年度				
					目標	実績	（目標）	（目標）				
	①	受講者数		人	500	339	500	500				
	②											
③												
説明	魅力ある講座を企画し、できるだけ多くの子どもに応募・受講してもらうことが指標となる。											

事業名		こどもカレッジ開催事業			シート作成課		社会教育課	
一次評価者		社会教育課長			二次評価者		教育委員会事務局長	
評価項目の説明	チェック項目				一次	二次	一次の評価又は説明	
	必要性	1. 事業開始時の目的を概ね達成するなど実施意義が低下している。 2. 社会情勢の変化など時の経過とともに事業開始時の目的が変化してきている。 3. 利用者、対象者の減少など住民ニーズの低下傾向がみられる。 4. 住民ニーズを上回るサービス提供となっている。 5. 国や他市町と比較するとサービスの対象や水準を見直す余地がある。 6. 国や県のサービスと重複している。 7. 民間のサービスと競合している。 8. 厳しい財政状況の中、実施する緊急性が認められない。				<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	学校の休業日に、子どもたちに体験学習などの機会を提供し、「生きる力」を育むことを目的として実施しています。 町内の小学校児童が集まり、一緒に体験学習を行うことで、体験する学習のほかにも人との繋がりができます。 講座内容により参加する男女差は生じるものの、概ね開講できています。 実際の指導は講師が行い、行政はコーディネーター役となっています。
	有効性	1. 施策の目的を実現するために、事業内容が必ずしも適切とはいえない。 2. 施策への貢献度が著しく高いとはいえない。 3. 施策の中で類似・重複した事務事業が存在する。 4. 事業の継続をしても成果の向上が期待できない。				<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	達成度	1. 事業開始時の目標設定に比べて進捗状況が劣っていると思う。 2. 事業開始時の目標に比べて成果があまり上がっていないと思う。 3. 概ね目標を達成していると思う。 4. 十分に目標を達成していると思う。				<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	効率性	1. 効果に比べてコストが高い（他市町や類似業務を行う民間に比べて）。 2. 現在の事業実施主体の他に効率的に事業を実施できる主体がある。 3. 他の実施主体のノウハウを活用できる。 4. 他の実施主体を活用しても公平性・公正性等が担保され、行政責任が問われない。 5. 事業実施している人員、手段等の見直しによりコスト削減の余地がある。 6. 電子化等の事務改善によりコスト削減の余地がある。 7. 契約方法の変更などによりコスト削減の余地がある。				<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
本事務事業の実施適切性の説明 3事業とも学校の休業日に、子どもたちに体験学習を行う機会を提供する目的で実施しており、内容については文化センター運営審議会の承認を受けています。								
一次評価	評価	必要性	有効性	達成度	効率性	総合評価		
		4	3	3	4	(8) B	7	7 A
						(7) D	(6) C	(5)(6) C
今後の方針	休・廃止		見直し		継続		拡大	
今後の改革・改善目標	土曜授業が実施されたことから、学校との連携を図り、開講方法など検討する必要があります。							
二次評価	評価	必要性	有効性	達成度	効率性	総合評価		
		4	3	3	4	(8) B	7	7 A
						(7) D	(6) C	(5)(6) C
今後の方針	休・廃止		見直し		継続		拡大	
コメント	開講方法の検討が必要であります。							
二次評価に対する課の考え方								
参画協働の今後の方針	いつから	平成	年度から	5 その他、参画・協働に関して、制度上、運営上、留意していく				